

# 市政推進の基本的な考え方

平成25年第1回名寄市議会定例会において、加藤市長が平成25年度の市政運営の方針について、小野教育長が教育行政運営の方針について述べました。  
(本誌には概要を掲載します)



市立総合病院精神科病棟改築救命救急センターの指定を目指します



南相馬市と災害時相互援助に関する協定締結



平成22年4月、私が市長に就任して、間もなく丸3年を迎えることとなります。

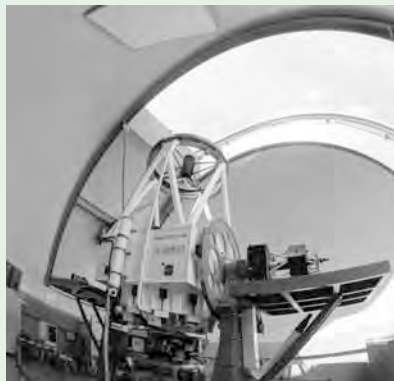
この間、多くの市民の皆さまから、まちづくりに寄せる様々な思いやご示唆、ご協力などをいただきながら「明るく元気なまちづくり」の実現に向け、取り組んでまいりました。

こうした中、昨年末に実施された総選挙において政権交代がなされました。新たな政権が目指す「経済再生」には、長年の経済低迷に伴い疲弊した地域経済の活性化を、「災害復興」には、南相馬市をはじめ被災地の一日も早い復興を、心から期待するものであります。

しかし、平成24年度末には長期債務残高が700兆円を超える  
と見込まれる国の財政は依然厳しく、地方に対しては、平成24年度補正予算において、公共事業を下支えする「地域の元




名寄を訪れる観光客をひまわりが  
出迎えるひまわりロード



星と音楽の融合など幅広く活用  
市立天文台「きたすばる」



名寄の新たな玄関口  
駅前交流プラザ「よろーな」




「気臨時交付金」を創設する一方、新年度予算では、地方の行財政改革による努力と矛盾する地方交付税の削減や、地方の裁量拡大に期待された一括交付金の廃止など、地方自治体は、これら政策転換に伴う新たな行政課題に対し、厳しい財政状況の中で、迅速かつ適切な対応が求められることとなります。

また、世界ではグローバル化が一層進む中、欧州経済危機に伴う先進国経済の低迷や新興国の経済成長の減速、不安定な中東情勢など、世界経済は大きく揺れており、国内では円安など一部回復の兆しがあるものの、未だ先行き不透明で不確実な社会経済情勢は、地域における厳しさとなって表れています。

このような変革の時にあたり、私は、初心に立ち返り、新名寄市総合計画を基本としながら10年先、20年先を見据えて、歴史の中で培われた地域の力、市民をはじめ縁ある人の力を結集したオール名寄の体制で、市民の皆さまが誇りと愛着を持ち、明るく元気なまちづくりに、全力で取り組んでまいります。

さらに、施策の推進にあたっては、通年ベースとしては、任期4年の最終年度となることから、課題を先送りせず、市民が主役のまちづくりを基本に、しっかりと取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



■市民と行政との協働.....

明るく元気なまちづくりを進め、かつ持続的に発展させるためには、その主体である市民の皆さまの参加が不可欠です。この間、まちづくりの基本ルールである「名寄市自治基本条例」や、その一つの手法として「名寄市パブリック・コメント手続条例」を施行してきましたが、一層の具体化に向け、より積極的な情報提供と多様な市民参加の保障、さらには実施方法の工夫や団体等の育成、支援などにも努め、市民と行政とが連携・協力し、共に知恵を絞り、汗を流す協働のまちづくりを進めてまいります。

■行財政改革の推進.....

地方自治体が置かれている厳しい環境に対応し、効率的かつ堅実にまちづくりを進めるためには、行財政改革による不断の努力が求められています。

このため、引き続き「簡素で効率的な行政運営」「健全な財政運営」「市民との協働の行政運営」の三本の基本方針により、行財政改革を推進してまいります。

また、行政運営の最大のエンジンは人材であり、意思の共有を強化するとともに、多様化する行政ニーズに柔軟かつ的確に対応し、質の高い行政サービスを提供するためには、職員のスキルアップが不可欠であり、派遣研修等も取り入れた職員研修の充実や外部人材の活用なども含め、人材の育成・確保に努めてまいります。

■財産を活かしたまちづくり.....

四季折々の美しい自然と豊かな大地、その利を生かし育まれる食の恵み、その恵みを享受し育つ人、人が伝え磨いた知恵と文化、そこに築かれた魅力ある施設や絆など、本市は、有形無形の財産を誇る、大きな可能性を秘めたまちであります。

4月には、駅前交流プラザ「よろーな」がオープンとなるほか、市民ホールや市立総合病院精神科病棟、市立大学図書館など、今後も新たな財産が加わることとなり、ソフト面の充実や施設間の連携による相乗効果などを発揮して、市民福祉の向上と地域の活性化に向け取り組んでまいります。

また、地域や人とのつながりは貴重な財産であり、これまでの交流事業などで築かれた絆、これからめぐり合う縁を大切に、発展させることで、文化の向上、交流人口や物流の拡大を目指してまいります。



台湾交流事業



南相馬市の小学生が名寄で林間学校



有森裕子氏にひまわりまちづくり大使を委嘱

# 教育行政執行方針から

## 心豊かな人と文化を育むまちづくり

名寄市教育委員会では、新名寄市総合計画後期基本計画の主旨をしっかりと受け止め、「心豊かな人と文化を育むまちづくり」を教育・文化・スポーツ分野における基本目標として関係部局や関係機関、団体などとの連携を図り、市民の期待と信頼に応える教育行政を推進してまいります。

まず、学校教育については、平成25年度名寄市学校教育推進計画に基づき、学習指導要領の理念である「生きる力」を育てる教育活動と地域ぐるみで子どもを育てる教育環境の充実を目指し、次の5つの重点的な取組を進めてまいります。

- (1) 確かな学力を育てる教育の推進
  - ・ 家庭学習の充実
  - ・ 地域の教育資源の積極的活用
  - ・ 学習指導の工夫改善など
- (2) 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進
  - ・ 道徳教育の充実
  - ・ いじめや不登校への対応
  - ・ 小学校におけるフッ化物洗口の推進など
- (3) 特別支援教育の推進
  - ・ 巡回教育相談の充実
  - ・ 個別の支援計画「すくらむ」の普及
- (4) 安全・安心な教育環境の整備
  - ・ 交通安全指導の充実
  - ・ 不審者への対応など
- (5) 信頼される学校づくりの推進
  - ・ 教職員の資質向上
  - ・ 服務規律の保持
  - ・ 学校評価の充実など



カーリング授業



市長と教育長との懇談会

次に、社会教育では、平成25年度から29年度までの社会教育の基本的・総合的推進方策である第2次名寄市社会教育中期計画をもとに、生涯学習の観点に立ち、次の5つの重点的な取組を進めてまいります。

- (1) 生涯学習機会の提供
  - ・ 市民講座の充実
  - ・ 家庭での読み聞かせの普及活動
  - ・ 小学生による小惑星発見プロジェクトの実施など
- (2) 豊かな地域文化の継承と創造
  - ・ 文化振興条例の制定
  - ・ (仮称)市民ホールの整備
  - ・ 地域に開かれた北国博物館からの情報発信など
- (3) 家庭教育の推進
  - ・ 家庭教育支援講座の実施
  - ・ 家庭教育を支援する企業との協定など
- (4) 生涯スポーツの振興
  - ・ スポーツ施設の整備や改修
  - ・ スポーツ人口の拡大や各種スポーツ大会の支援など
- (5) 青少年の健全育成
  - ・ へっちゃんランドの実施や杉並区の子どもたちとの交流
  - ・ 青少年の問題行動の未然防止や適切な指導
  - ・ 放課後子ども教室による学習習慣の定着など



へっちゃんランド



憲法記念ロードレース

本市は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、市立大学を抱える教育都市であり、将来の地域を支える人材を育てる大きな役割と責任を担っております。

名寄市教育委員会としては、この自覚のもと、これまで以上に学校、家庭、地域社会との連携を深めながら、本市の教育の振興と発展に誠心誠意努力してまいります。

市民の皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。